



大会雑感



左右田 哲

人生一番最初の大会は、滋賀県米原で開催された時でした。その年は、阪神淡路大震災が起き、諸先輩方が支援に駆けつけている中での大会でした。私は、多くのSWが研鑽し、学ぶ姿勢にただただ圧倒されていました。

その後、縁あって日本医療社会福祉協会（当時は「日本医療社会事業協会」）の理事に、福島県郡山の大会で就任する機会が与えられました。そして「北海道（洞爺）」「東京」「徳島」「兵庫（神戸）」「茨城（つくば）」「高知」「沖縄（那覇）」「山形（天童）」「長野」「大分（別府）」「群馬（前橋）」「大阪」と、大会を企画するメンバーの一人として関わっていきました。

当然のことですが、大会は企画するメンバーや土地柄といった「個性」がとても表れます。またその時々大きな出来事も反映されていきました。東日本大震災はもちろんですが、その他に、火山噴火、地震被害、家畜の感染により、その地域社会に大

きなダメージを与えたことや、診療報酬改定による社会福祉士の位置づけといった、その時期に検討したり支えあえるような課題に向けて検討し、解決につなげていけるような中身がプレゼンされたり議論しあったりしました。

2016年新潟大会から、企画の中心が都道府県協会から日本医療社会福祉協会へとなりましたが、日本中から出席される仲間をもてなし、高めあい、支えあえる企画運営を、協会員一人一人が担っていくことは今までと変わりません。そのために、今年の香川大会に参加しましょう。また、神奈川大会の翌年開催される大会にきちんとつなげていけるよう、考えていきましょう。

2019年にどのような社会になっているか、今から予測することは不可能です。しかし知恵を絞って予測し、何が重要になりそうかを議論し、それらを踏まえて企画していくことが重要です。神奈川大会は県協会理事とプロジェクトメンバーが企画を担っていきますが、随時皆さんに意見や行動を頂くこととなります。その際は是非、お力をください。もうあと大会まで1年数か月です。よろしく願いいたします。

決定！

全国大会の開催日時、場所が決定しました！

日時：2019年6月7日（金）～6月9日（日）

会場：川崎市コンベンションホール



川崎市コンベンションホール

2018年4月オープン

JR南武線・湘南新宿ライン・横須賀線
「武蔵小杉」駅北口 徒歩約4分
東急東横線・目黒線「武蔵小杉」駅 徒歩約5分



「学術部会 ってなあ～に!?! ～学術部会の役割と、いま話し合っていること～」

学術部会ってなあ～に!?!してるところでしょうか…。

それは、2017年9月14日（木）かながわ県民活動サポートセンターにて開催された第2回全国大会実行プロジェクトにて「学術部会」が発足されました。

構成メンバーは、重本晴賀（西湘病院）、高橋恭子（神奈川県立保健福祉大学）、一杉浩史（上白根病院）、福田美香（東名厚木病院）、堀越由紀子（東海大学）、陽田加奈子（厚木市立病院）（50音順：敬称略）の6名です。

学術部会の役割は「私たちの学会発表講座（ニュースレターに掲載）」の企画・作成にはじまり、神奈川県からの発表者および共同研究者の募集から発表までのサポート役として活動をする部会という位置づけです。

2017年12月12日（火）かながわ県民活動サポートセンターにて開催された第1回学術部会における話し合いでは、「神奈川県からポスター発表を含め、12演題以上がエントリーできるようにしよう!!」という数値目

標を立てました。

目標達成に向けた具体案としては、ニュースレターの掲載内容を協議した他、紙面だけではなく講義形式で学会発表講座として、「はじめて発表するあなたへ（仮案）」というタイトルで、研究テーマの見つけ方、研究計画の立て方、研究の進め方など、初めて発表する方や発表の仕方を忘れた方などを対象に、研究のいろはについて、わかりやすい内容の講座を開催してはどうかなどの企画案もできました。

その他、質的・量的研究、分析ソフトの紹介、院内に倫理委員会がない場合はどのようにしたらよいかなどの内容が含まれているとよいのではないかと。日本医療社会事業学会演題募集に準ずるスケジュールなどもわかるとよいのではないかとという提案もありました。

さらに、神奈川県医療ソーシャルワーカー協会の研修研究部とのコラボレーション企画では、全体研修のときに会員向けアンケート用紙の質問にどのよ

うなサポートがあれば演題募集のエントリーができるのかなどを盛り込んで、会員のニーズ把握や学会の広報活動につなげてはどうか。次年度以降の研修研究部のスキルアップ研修時に「学会発表講座II」の企画、全体研修時に「実践報告会」を企画してはどうか等々、さまざまなアイデアと意見交換がされました。

これらは、いずれも企画立案段階ですので、会員のみならずと創り上げていく神奈川大会なので、会員ひとり一人が…あなたが主役です。あなた自身やソーシャルワーカーの仲間と共に「発表の種」を育むことによって、芽が出て（演題エントリー）、花が咲く（学会発表）ことをサポートしていくことができたら…それが学術部会です!!みんなで神奈川大会を盛り上げていきましょう。



陽田 加奈子

非会員の視点から

皆様、初めまして。小林病院の櫻井と申します。名の知れた錚々たるメンバーの中で、櫻井とは誰だと思いかもかもしれませんが、実は私自身は神奈川県MSW協会の非会員なのです。今回、たまたま水野会長との酒席で全国大会に興味がある旨を伝え、今回の協力員として参加させていただくことになり、広報部会として活動しております。

さて、非会員として活動している中で、会員・非会員に限らず一丸となればMSWの未来を盛り上げることができると思えました。なぜなら、私自身は会員の方とはソーシャルワークに対する意識の温度差があると感じ、また正直なところ会費の面もあって協会への入会と今回の参加を悩んでいた中で、非会員である私に対しても入会を強制



櫻井 優光

せず、逆に今回の協力員として歓迎してくれたからです。人によっては、経済的事情や家庭事情などで入会が難しい方もいるかと思いますが、同じMSWとして協力できることがまずは重要だと思います。今回の全国大会はプロジェクトメンバーが主で動いておりますが、神奈川のMSW全体で盛り上げていくことで成功につながると信じています。なので、皆

神奈川デッサンクイズ③ 「さて?ここはどこでしょう?」



答えは次号で!

さんの周りに非会員の方がいましたら、全国大会の情報を流していただき、少しでも知恵が集まるようにご協力を促していただけると嬉しいです。

2019年の神奈川全国大会で、会員・非会員に限らず多くのMSWが参加されることを望み、これをきっかけに今後のMSWのみらいの架け橋となればよいと思います。

初めての取り掛かり



一杉 浩史

「学会発表」と聞くと、何を発表したらよいかわからない、研究ってどう進めればいいのかわからないなど身構えてしまったり、自分の力量ではできない、大変といった理由で敬遠してしまうのではないのでしょうか。近年は、退院支援を中心にS Wに求められる役割や業務が増え、特に抱える業務量が手一杯でそういった学会発表の準備をする時間がとれない、余裕がないといった意見も多いと思います。

なぜ研究するのでしょうか。特に医療機関は医師、看護師、リハビリテーションスタッフなど専門職集団で構成されていて、どの職種も積極的に研究活動や専門性の向上に努めています。であれば、我々も同じ専門職として根拠のある支援をし、専門性の向上に努める必要があると言えます。それは、医療ソーシャルワーカーの倫理綱領においても「価値と原則のV（専門的力量）ソーシャルワーカーは、専門的力を発揮し、その専門性を高める。とあります。そして、倫理基準のII. 実践現場における倫理責任の4.（業務改善の推進）ソーシャルワーカーは、常に業務を点検し評価を行い、業務改善を推進する。IV. 専門職としての倫理責任1.（専門職の啓発）ソーシャルワーカーは、利用者・他の専門職・市民に専門職としての実践を伝え社会的信用を高める。」などと規定されています。自分自身の実践をふりかえり、発信する姿勢や責任が専門職として重要なのではないのでしょうか。

必要とわかっていても、どう取り組めばいいかわからない、何を発表したらよいかテーマをどうしようと考えてしまいます。何か特別なことを見つけるのではなく、実は日々取り組んでいることが実は特別なことかもしれないといった視点の切り替え、自分が支援しているクライアントの問題をメゾ・マクロ視点で捉え話し合ってみると気づくことがあるのではないのでしょうか。もしかすると、たまたまテレビ番組で取り上げられていた内容がクライアントに起こっているかもしれません。

まずは「問題現象」としてとらえ、その問題は自分だけが感じている問題なのか、特定の患者・家族だけが抱える問題なのかを考える必要があります。実はその問題を広く捉えると、その組織や地域社会が抱える問題であったり、社会で言われている問題が目の前の患者・家族に当てはまっているかもしれません。まずは考えてみる、取り組んでみるから始まると思います。



発表したいテーマが絞れなかったら、発表の方法を検討します。①研究目的（なぜこの研究に取り組もうと思ったか、問題現象など）、②方法（アンケート調査や記録調査、取り組み、事例報告などの調査方法について）、③結果（調査の分析結果をデータ集計したものや事例、取り組み内容結果など）、④結論（全体を通して述べたい内容、考察、課題など）、といった構成で抄録を作成し、発表資料の準備を進めます。抄録は文字数の規定が各学会で異なるので気をつけましょう。また、発表資料も事前提出の学会もあれば、当日データを持参で直前まで修正できる学会もあります。日本医療社会福祉協会の全国大会は、事前提出になります。

そして実は「発表演題」が大事です。学会参加者は抄録の演題名に興味を引かれるかどうかで聞きたいか判断します。そして、演題名と内容が合致しているかも重要ですので、最後まで今興味を引く演題名をいろいろ考えましょう。そして取り組みたいテーマや内容について、その分野で先行研究や他に発表などないか調べることが必要です。過去の学会抄録をさかのぼる、CiNiiなどの論文検索サイトで過去の研究をレビューしてみる、参考図書を読んでみるなどしてはいいでしょうか。まずは、やってみる！調べてみる！ですね。

<編集注>

□ オンラインデータベースの代表的なもの

- ・CiNii(サイニー)・・・<https://ci.nii.ac.jp/>
- ・J-STAGE・・・<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
- ・Google Scholar・・・<https://scholar.google.co.jp/>

□ 文献入手方法

- ・国立国会図書館の遠隔複写サービス利用
- ・近隣大学図書館
- （利用の可否は個々にお問い合わせください）



福田 美香

2017年11月28日、プロジェクトメンバーの鈴木克典さんのご協力も得て、藤沢市にある、医療法人社団 孝誠佑會い

きるけあにて第3回の全体会議を行いました。

プロモーション部では、『かながわ大会2019』と題したPVづくりにあたり、神奈川県内の名所をまわり準備をしていることや、タスキの作成・マスコット(?)となるカモメ隊長にも登場して頂き、動画撮影を計画中とのことでした。現在協カメンバーを募集しています！

広報部では、封筒・ロゴマークづくりを検討しており、ニュースレター2号について作

成中であるとのことでした。

ニュースレター2号は皆様のお手元にすでに届いておりますが、プロジェクト名称を『かながわ大会みらいプロジェクト』とすることがきまりました！皆様是非覚えてくださいね。

全体プログラム部では、大会のコンセプトについてメンバー内で意見交換を行いました。神奈川らしさや、ソーシャルワークのキーワードとして、「多様性」「ダイバーシティ」「生きづらさを支える人を支える」

「地域の多様性」「創造して、発信する」「ともに生きる、実践での気づきをかたちに」

「風」「時代の風」「多文化共生」「みらいのソーシャルワーク」など、たくさんの意見が出ました。現在、案として『ともに生きる・ダイバーシティかながわ』はどうか、という意見が

出ています。その他、全体の構成や、企画についても引き続き検討していきます。ぜひ講演してほしい方や企画など、会員の皆様のご意見もお待ちしています。

現在山場となっていた、会場候補ですが今回は、大会の行われる年にオープンする川崎市コンベンションホールの活用について提案がありました。パシフィコについては、同じ年に行われる国のイベントより影響が出そうであるということでした。会場の結果は、この紙面でご報告された通りです！2019年の神奈川は、いろいろとイベントが盛りだくさんで、賑やかな年となりそうです。

以上、第3回目会議について報告させて頂きました。次回は1月に開催される予定です！



全国大会の会場について…ちょっとひとこと…



水野 茂樹

「あれ？パシフィコじゃないんだ…」

会員の皆さまの声が聞こえてきそうです。会場については、2017年7月より、日本医療社会福祉協会、当協会を探し始めましたが、①パシフィコ等の空きがない②公共施設や大学は予約を受け付けていないという状況で大変苦勞をしました。

唯一、あるホテルの仮予約にまでこぎつけましたが、1,000人以上の参加者が見込める本大会の会場としては手狭であり、「そこしかない」「でも…」と会議は常に紛糾する状況でした。

そんな中、未完の公共施設でありながら、予約を1年6か月前から受け付けている「川崎コンベンションホール」を知り、

予約開始日に真っ先に抑えることができたのです。

前回の神奈川大会も、完成したてのパシフィコで行ったと聞きます。今回も新築のコンベンションホールです。まさに、時代を先取していく神奈川らしい会場ではないかと思っています。

神奈川デッサンクイズ② 「さて？ここはどこでしょう？」



正解は…「横浜関帝廟（横浜中華街）」

開港して間もない1862年、一人の中国人が関羽の木像を抱いて、現在の地にささやかな祠を開いたといわれます。以来、横浜中華街に住む人々の心の拠り所として親しまれてきた横濱関帝廟。祀られている主神は三国志の英雄として有名な実在の武将関羽(關聖帝君)。

武人としてだけでなく、帳簿を発明するなど、理財にも精通していたため、中国では「財神」すなわち金儲けや商売繁昌の神として信仰されています。武将にとっても商人にとっても一番大切なものは信義・信用という点から、商業神としての信仰も厚く奉られています。(横浜観光情報より)

【編集・発行】

かながわ大会みらいプロジェクト広報部 櫻井優光、鈴木克典、高瀬昌浩、中村悦史、長谷川知美、水野茂樹
(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会事務局 TEL/FAX 045-827-1217 E-mail:msw.kana@proof.ocn.ne.jp